

## 初心忘れるべからず

理事\*岡部 眞紀子

私が「福祉」と関わるようになったのは、忘れもしない、10年前に起こった阪神淡路大震災でした。私自身怪我ひとつ負わず家族も全員無事だったことは、奇跡的で“助けられた命”だとあの時から思っています。あの時から自分に来ることをその時に応じて出来る限りしてきたつもりです。ただそれが最善だったかどうかはわかりませんが……。振り返れば本当に色々なことがありました。嬉し涙・悲し涙・悔し涙、たくさんの涙を流しましたが、私にとって何物にも代えがたい、望んでも得ることの出来ない貴重な経験をさせてもらったと思っています。10年と言えば人生の中のひとつの節目だと思います。私事です震災の時に中3だった娘が子どもを産み、孫が誕生しています。10年の間にこれだけのことが起こっています。これから10年、震災から10年で得た経験を自分の人生にどう活かしていくかが私の課題で、これから先の地域福祉の在り方にも活かしていけるよう、初心に戻り前進したいと思っています。

## 「自分たちがつくる、

## 自分たちの事業所」

**あしすと**

都市生活ヘルパーステーションあ・し・す・と (垂水)

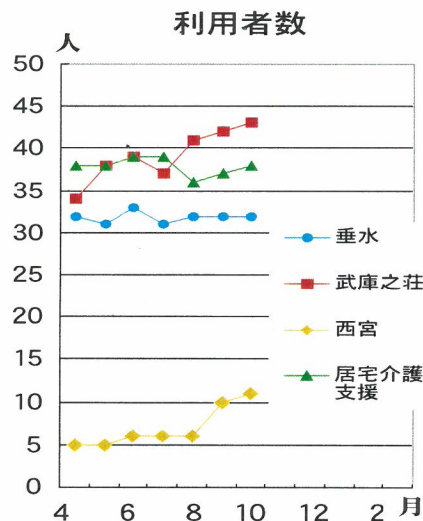
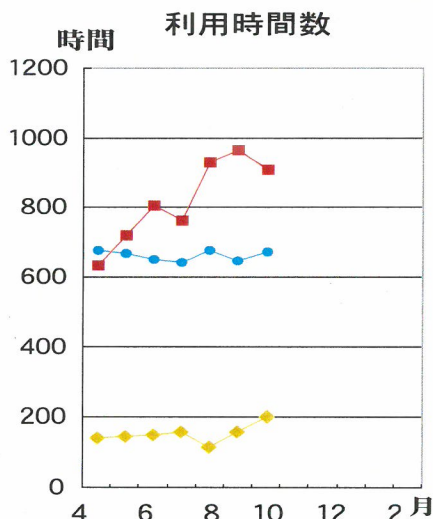
阪神淡路大震災から10年がたちました。長いようで短かった10年……。私たち、「都市生活ヘルパーステーションあ・し・す・と」の起源はここにあります。震災の体験から、地域で生活をする事の大切さ、そして自分たちの将来(老いるということ)を考えさせられました。生協都市生活が「2級ヘルパー養成講座」を開催するようになったのも、このことなどもあったと思います。「あ・し・す・と」は、その卒業生たちが、TCCのもとで立ち上げた事業所なのです。今、神戸市垂水区の「あ・し・す・と」には、常勤者・登録ヘルパーと26名(10月現在実際に働いている人)が働いています。その内、「生協都市生活の組合員」が20名・「都市生活のヘルパー養成講座卒業生」が16名います。自分たちがつくる、自分たちの事業所だということが「あ・し・す・と」の一番の魅力です。私たちの未来のために皆で頑張りましょう。(涌田)

## 2005年度☆介護保険事業報告

- ★あ・し・す・と (垂水)
- ★あしすと武庫之荘 (尼崎)
- ★あしすと西宮 (西宮)

●現在、3つの事業所を拠点に都市生活組合員が中心となってヘルパー派遣事業を行っています。

●武庫之荘では居宅介護支援事業(ケアプラン)、支援費事業も行っています。



# 「あいたくて都市生活 ～私のひとこえ♥広がれみんなに～」

## 出石町9名の皆さんが参加

前川 智佳子

10月最後の日曜日30日に三宮のサンボーホールで生協都市生活の生産者と組合員のお祭り＝「あいたくて都市生活」がありました。

参加団体の一つとして、水害ボランティアでおつきあいがはじまった出石町の皆さん女性4名男性5名が来て下さいました。

当日は出石を朝早く6時頃に出発し、ホールには9時には到着。

出石町の自然を運んでくれました。栗・黒豆・ぎんなん・大根・菜っ葉・キャベツ・ピーマン・柿・お餅・花・甘酒・そば・うどん・・・とたくさんの品物でした。

価格設定がお祭り価格でしたし、品物の良さ、組合員が市場の価格をよく知っている事もあって、開始30分であっという間に売れたものも多々ありました。

お花・甘酒は振る舞われ、みんな満足という時間を過ごしました。

このお祭りに参加して頂くにあたり、何度か電話

でやりとりをしました。6月運動会におじゃましたときは田んぼに稲が植えてあるのを見てほっとしたものでした。その稲が実り10月は忙しいとの返事を聞いて、今までなら「大変だなー」と思うところ「よかった」と思いました。甚大な被害に遭った時、人



はいかに日常が大切か自覚するに違いないと思うからです。家の中の土砂を取り除き、田の土砂をくみ上げ日常を作るための努力が積み重ねられました。少しだけ私たちもお手伝いしましたが、忙しい中このように参加して頂いたことは出石町が水害前の状態を取り戻しつつあるのだと思います。お互いに田舎と都市で元気の行き来ができて、絆は深

くなりました。

※このお祭りの売り上げ65,800円は自然災害カンパとして都市生活コミュニティセンターに委託されました。次回理事会でカンパ先を検討し被災地に届けます。

## 雪を迎える

急に寒くなってきました。11月16日には12月中旬並の寒波が列島に襲来し、中越地震の被災地では山沿いで雪になったところもあると聞きます。震災後2回目の本格的な雪の季節がいよいよ間近に迫っています。

旧山古志村（現・長岡市）では、工事の遅れなどから来年9月の完全帰還はほぼ無理とされています。しかも、「完全帰還が可能」といっても、それは道路などのインフラが復旧するという意味で、個々の住宅が再建されるかどうかはまた別の話です。

さらに、旧山古志村を中心に約350ヘクタールの水田が依然として来年も作付けが不可能と見込まれています。

前号と前々号で紹介した山古志の復興プランは、まさに今、正念場にさしかかっています。

一方、一年間にわたって避難指示が出されたまま

だった、十日町市樽沢（たるさわ）地区では、10月25日によろやく避難指示が解除されました。崩れた地盤の復旧工事が8割完了し、一部の住民のみなさんは自宅帰還が可能になりました。しかし、まだ仮設住宅で住まわれている方もおられます。（新潟県のホームページ【註】に写真入りで現地の復旧状況が掲載されています）

11月22日には都市生活コミュニティセンターと生協都市生活のメンバーが、この樽沢地区をおよそ一年ぶりに訪問します。次の号では現地のようにみなさんにお伝えしたいと思います。

（11月17日記・池田啓一）

【註】

[http://www.pref.niigata.jp/chiikishinko/toukama-chi/kikakushinkobu/kikakusinko/t\\_sinkoukyoku/cyuetuzisin/tarusawa\\_fukyu5/index.html](http://www.pref.niigata.jp/chiikishinko/toukama-chi/kikakushinkobu/kikakusinko/t_sinkoukyoku/cyuetuzisin/tarusawa_fukyu5/index.html)

## ～インフォメーション～

● m( )m ありがとうございました。（11/5現在）

○パキスタン北東部地震カンパ TCC団体会員5件=50,000円 10/30あいたくて会場にて=5,445円

○新潟中越地震カンパ（10/30あいたくて会場にて）=839円